

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

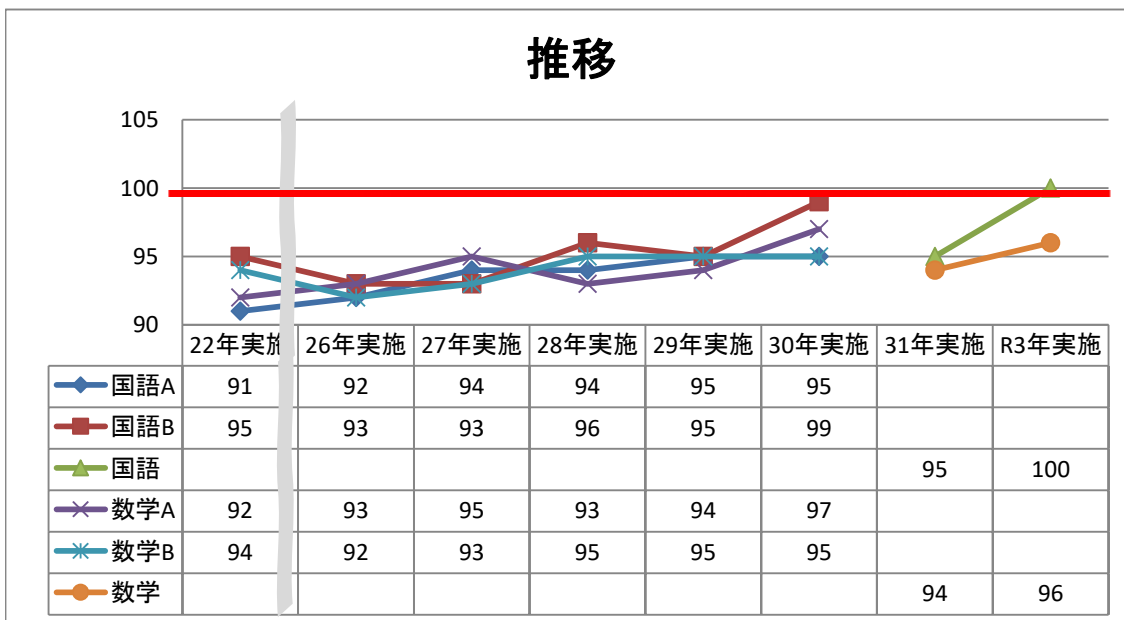
全国学力・学習状況調査における標準化得点を国語95以上、数学84以上(本校平均正答数÷全国平均正答数×100)

3.指標に向けての取組

- 一単位時間の「めあてーまとめ」のある共通の授業スタイルの確立
- 各教科における「かく活動」を位置付けた物事を捉える視点や考え方を生かす活動
- 「山田中学校区 授業のグランドデザイン」に基づいた授業規律の確立と徹底
- 集中して学習に取り組む習慣を定着させるためのモジュール学習の展開
- 学級集団づくりの視点を生かし、基礎的・基本的知識の定着を目指す学習コンクール(数学は「未来への一歩」)の実施
- 考査前補充学習の充実

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	100	96
嘉麻市	97	97
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

<p>文章の内容を捉え考察したことを説明する問題の正答率が低く、無回答率が高い。具体的には</p> <p>【国語】 場面の展開を捉え、登場人物の心情の描写に注意して読む力が必要である。文学的文章を読む授業において、登場人物の言葉や行動が話の展開や作品の印象にどう関わっているかを考え、作品を解釈・評価する活動を仕組んでいく。描かれていない言動の意味や心情についても想像を働かせることで、作品をより深く読み味わう力を身につけさせる。</p> <p>【数学】 観察、操作や実験などの活動を通して、基本的な平面図形の性質を見だし、平行線の性質をもとにしてそれらを確認する問題である。平面図形を取り扱う際には、平行線における角の性質を理解させ、色々な視点から図形の角度がどのように変化するのかを考え表現する場を設定する。</p>
--

6.各学校における今後の取組

<p>【授業づくり】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 生徒が主体的に取り組む一単位時間の共通の学習過程の確立○ 各教科における「かく活動」を位置付けた「思考活動」の充実○ 根拠をもとに考えを表現する授業 <p>【学力基盤づくり】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 「学習規律のスタンダード」に基づいた授業規律の確立と徹底○ 集中して学習に取り組む習慣を定着させるためのモジュール学習の展開○ 学級や個人で目標を決め、取り組み、達成感を味わう学習コンクール(数学は「未来への一歩」を活用) <p>【学習の未定着な生徒への支援】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 全生徒対象の定期考査前習熟度別補充学習○ 家庭学習(自学ノート)定着のための支援
--

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

<p>各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるための短期スパンのPDCAサイクルについて指導・助言を行う。○ 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。○ 同一集団の学力や学力層の推移に着目しながら、学力向上策の評価・分析を行い取組の検証改善を図るように指導・助言する。○ 校内研修や学校訪問において、「書く活動ポイント9」の活用を促す等、思考を伴う書く活動の徹底指導を図るように指導・助言を行う。○ 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導・助言を行う。○ 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての交流や指導・助言を行う。○ 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。
--